



就任ご挨拶

公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
会長 神山 清志

会員、賛助会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。皆様におかれましては日頃より当会の運営・活動にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

6月8日に開催されました平成30年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会定時会員総会におきまして役員の改選が行われ、引き続き行われました理事会にて津田聡一郎前会長の後任として、私 神山清志が会長（代表理事）に選定されましたことをご報告申し上げます。

当会は、昭和28年に埼玉県細菌・病理試験技術者会として発足し、昭和60年に特例民法法人である社団法人埼玉県臨床衛生検査技師会となり、平成26年1月に公益社団法人埼玉県臨床検査技師会へと変遷しています。その間、17名の会長のリーダーシップのもとで会が健全に成長し続けていることは諸先輩方の努力の賜であることと敬服いたしております。

医療の世界は厳しさが増す一方であり、われわれ臨床検査領域も同じです。物価や人件費や税金が上がる反面、診療報酬は引き下げの連続です。そして、今後確実にやってくる超高齢化社会では生産人口の低下により医療財源も乏しくなることは明白です。そのような状況が目の前に迫っている中で私たちは何をすべきでしょうか？幸いにも私たちの仕事は黙って部屋の中で検査をするといった一昔前の姿から、積極的に外に出て検査をする体系に変わってきています。しかし、臨床検査技師は私たちが思っているほど社会的には認知されていません。国民が健康で健やかな老後を過ごせるように生活習慣病対策や、健康寿命を延ばすための啓発活動等を積極的に実践して、さらには、検査説明や検体採取を介して臨床検査技師が、顔が見え、認知され、さらに必要とされる職種となるよう技師会運営に努めていきたいと考えます。

私事で恐縮ですが、平成13年に理事会の末席を汚す身となり、主に精度管理、学術を担当し平成21年より副会長を努めてまいりました。私が理事になった当時の会員数は約1,500名でしたが18年が経過した現在、3,000名の大台に乗ることはほぼ確定と思われまます。大所帯となった埼臨技の舵取り役を担うには荷が重いのが事実ですが、諸先輩方が築き上げた埼臨技をさらに発展させられるように、安定的な会務運営と、建設的な事業展開に誠意努力する所存です。

会員、賛助会員、関係官庁、各団体の皆様方のご理解・ご協力を切に望み、会長就任の挨拶とさせていただきます。